

## 平成 24 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(山北第 2、第 3 地区)

開催日時	平成 24 年 9 月 26 日 (水) 午後 7 時から午後 9 時	天気 晴れ
場所	中央公民館	
町民参加者	男 28 人 女 13 人 (40 代以下 1 人、50 代 3 人、60 代以上 37 人)	
町出席者	町長、副町長、教育長、企画財政課長、総務防災課長、環境農林課長、定住対策室長、事務局 2 人	

### 出席者から出された主な意見や提案

#### 《テーマ：防災対策》

- 自主防災組織について、資料には組織の基本的な班構成とあるが、大きな災害時にはこういう班を作っても、班長が不在やケガ、連絡がつかないということがあり得る。
- 自主防災組織を自治会主体で整備するのであれば、具体的に町として、例えばこの自治会はこういう特性があるのでこうしたらどうかという具体例を出す必要があるのではないか。
- 災害時には相当なリーダーシップと専門知識を持って、迅速に活動を行わなければならないことになるが、自治会長や組長は 1～2 年の任期で交替をしてしまう中で、本当にできるのか疑問。もっと専門的に長くやってもらう別組織が必要ではないか。
- 県の地域防災リーダーというものがある。3 か月の講習を受けるものだが、これは自治会や組とは関係がないので、こういう人をリーダーとして、地域防災計画の項目に入れてはどうか。

#### 《テーマ：ごみ対策》

- 宮地のサンクスの横に集積所があるが、毎週火曜日に無記名で普通のビニール袋に入れられた不法投棄がある。黄色の紙が貼られて収集されずに残されていたが、宮地地区から出たものではなく地区外からの投棄と推測される。
- ごみ集積所のカラスネットを、野良猫が穴をあけてカラスがつついてしまう。もう少し丈夫な網をいただけるか金網のものにするなどの検討を。
- 歩道に可燃物・不燃物の集積場が設けられているところがあり、現実には歩道を塞ぐような量のごみが出されているところが見受けられる。町が、個人の土地を一部借用して、歩道に出ないようなごみの集積場を設置するといった対応はできないか。

#### 《テーマ：その他》

- 町内ではサルやシカやイノシシが出て、農作物等に被害が出ていると言われたが、私の畑にも

イノシシが2頭出て困っていた。うち1頭は町で捕獲してくれたが、もう1頭がまだいる。

○町に申請し、許可を得て箱ワナを掛けているが、掛った後の処分に苦慮する。町で処分も対応していただけないか。

○町が制定しようとしている自治基本条例は、直接民主主義を目指すものなのか。

○第7条に町民の責務とあるが、国民に対する制約や責務は国の法律で決めることで、市町村の条例で決めることではない。

○町の人口は、1年間で181人減っていることになる。10年経つと1,800人減るとなれば、人口が1万人を切ってしまうことになる。1万人を切った市町村は自治体の役割をしないとして、合併するという話が5～6年前に出たと思うが、人口減少の歯止めについて伺いたい。

○駅北側住宅について、6階建て40戸を造ったくらいでは、人口減少に歯止めはかからない。また、高度経済成長のように住む家がないという時代なら、住宅公団のように行政が住宅を作るということもあり得るが、国も住宅を作らない時代に町が造るのか。

○自治会要望について、自治会役員は交替が早いので、過去5年分くらいの進捗を教えてください。

○自治会長の業務量が多いのではないかと。時代にそぐわないものは廃止ということも考えていただきたい。